

令和元年度 第1回燕市生涯学習推進協議会 会議録（要旨）

日 時： 令和元年7月24日（水）午前10時～12時00分

会 場： 燕市民交流センター 3階 多目的ホール

出席委員： 石附委員、小野塚委員、田公委員、田中委員、中島委員、福田委員、水野委員、村山委員、柳原委員 9名

欠席委員： 金子委員、滝本委員、真嶋委員、山宮委員 4名

事務局： 燕市教育委員会 遠藤教育長、宮路教育次長、石田社会教育課長、本田課長補佐、古澤副参事、浅野主任

社会教育課 宮路副参事、平岡係長、田中係長、学校教育課 関矢統括指導主事、地域振興課 外山主事、健康づくり課 高野専門員

報道機関： なし

傍聴者： なし

議 題： 報告

- (1) 燕市社会教育施設使用料見直し方針(案)について
- (2) 燕市生涯学習人材バンクの平成30年度実績について

協議

第2次燕市生涯学習推進計画における平成30年度の成果指標の実績値と令和元年度の目標値について

- (1) 輝くつばめを担う子どもの育成
- (2) 多様な学習ニーズに応える学習機会の充実
- (3) ふるさと燕の芸術文化活動の振興
- (4) 生涯スポーツの推進と健康づくりの推進
- (5) 生涯学習社会を支える環境づくり

意見交換

1. 生きる力を育む青少年教育のありかた、地域・家庭の教育力について
2. 国上寺本堂絵巻の児童見学自粛について

その他

- (1) 第13回良寛書道展出品要項について
- (2) 第14回燕市美術展覧会出品要項について

[以下、会議録(要旨)]

報告

- (1) 燕市社会教育施設使用料見直し方針(案)について

《事務局説明》

(質疑応答なし)

- (2) 燕市生涯学習人材バンクの平成30年度実績について

《事務局説明》

(質疑応答なし)

協議

(1) 輝くつばめを担う子どもの育成

《事務局説明》

○委員

ファミリーサポートセンター事業利用件数の平成 30 年度の目標値 900 件、実績 914 件達成率 100%超えとなっているが、平成 34 年度最終目標値が 2200 件で、平成 30 年度実績は目標値の半分をはるかに下回っている。これをどう捉えるか？

どういう課題を抱えているか。受給のバランス、子どもをお願いする人と受け入れる人のバランスがあると思うが、制度そのものの運用が難しくなってる状況が背景に無いか、そのことを確認することが来年度の目標値を検討する上で、決め手になってくる。

○事務局

ご承知のように住民ニーズは年々多様化し、施策も多様化してきており、問題が無い訳ではないが、そこで対応できない部分については、子育て支援センターが市内に 8 か所設置しており、ファミリーセンター同様のことも行っているため、このような数値になっている。平成 34 年度最終目標値については、子育て支援センターに流れてきている部分もあるため、最終目標値に修正をかけなければ整合が取れなくなってくるかと思うので、検討させてほしい。

○委員

制度そのものが時代のニーズに合っていないし、また違った環境が整備されて、人の流れも変わってきている。年度の目標値や最終目標値の検討をしやすいするため、そういったところの説明を是非お願いしたい。

○委員

燕ジュニア検定受験者数について、本来子どもの自主的な参加であり、正直には 70%くらいである。ところが各学校で地域学習をしていて、是非参加をお願いしますと何度か保護者にご理解いただいて 98%の驚異的な数字を出している。内容的には、非常に良い学習の機会であるから、可能であれば、燕市独特の地域学習ということで総合学習でも教育課程に位置付けて、3～4年生くらい子どもたちが全員で出られる仕組みを作ってはどうか。学校教育課として検討してほしい。良い活動であるから活かしてほしい。

○事務局

とても貴重なご意見、ありがとうございます。各学校で地域学習としてしっかり取り組んでいることをお話いただき、また私共も学校訪問でお聞きしている。この扱いについては持ち帰って検討したいと思う。

○委員

子育て支援センター8か所あるとのことだが、どこがあるのか。

○事務局

3地区それぞれ設置している。一つの例で言うと分水地区は児童館の中に、燕地区は西燕保育園の中に。子育て支援課作成の子育てガイドの中に支援センター一覧表が乗っている。(読み上げる。)

○委員

ファミリーサポートの提供会員の年齢資格はあるか？

○事務局

後日回答させていただく。

(2) 多様な学習ニーズに応える学習機会の充実

《事務局説明》

○委員

ボランティア・市民活動関連講座・研修の受講者数について、この研修を受講した人が実際どのくらいの割合でボランティア活動を行っているのかその数値をお聞きしたい。

○事務局

担当課に確認し、後日回答する。

○委員

達成率をどう評価するか、行政の目線と市民の目線は違う。端的なものとして若者就労支援事業の目標値平成30年度15人であるのに実績が7人、達成率は50%割り込んで×になっている。しかし、若者の雇用環境改善は進んでいて、就労支援策が実に多様化細分化している。大学の卒業生が三条で、ニート・ひきこもり・発達障害の若者たちの内職のあっせんとして企業に結び付け、家族に対しても座談会を開催したり、けっこうきめ細かい対応を行っている。このように、いろいろなサービス、制度が広がっている。これは多様な学習ニーズに応えているということになり×ではない。そういうふうに見ていかないといけない。これは、質問ではない。

(3) ふるさと燕の芸術文化活動の振興

《事務局説明》

○委員

文化祭の参加団体とか、文化協会の加盟団体数が減少しているということだが、1団体の会員数の減少も著しいものがあると思う。高齢化だけでなく、年金生活でワンコイン以上出せないとか、会員数が減っているから講師謝礼も出せず活動そのものも中止・廃止し

てしまった団体もある。各施設の使用料の問題とも絡んでくるが、そういうような負担金が増えるということは、今後ますます参加団体数の減少も予想されるが、それについて対策とか何か考えているか。

○事務局

平成 30 年度の実績数が大幅に落ちている理由は、毎年、産業会館において吉田公民館の文化祭を行っているが、昨年度は産業会館が改修工事となり、そのため吉田公民館で団体数を減らして文化祭を開催した。また今年度から産業会館に会場が戻るなので、結果として数字は元にもどる。

○事務局

使用料見直しの観点から、利用団体の中で高齢化が進んでいて、なかなか資金繰りが難しいというお声は、この度 7 月 8 日で締めたパブリックコメントの中でも頂戴しているところ。ただ同時に施設の総合保有量の適正化の計画もパブリックコメントを行って市民の皆さまからいろいろご意見をいただいているということもあり、この人口減少社会において今のまま無料でこのまま施設数を維持していくのは非常に難しいという状況が一方である。そうした中で受益者負担という観点から少しでも皆さまに料金をいただきたい。また体育施設ではずっと受益者負担という観点で減免は行っているものの、原則有料という観点で料金をいただいている。同じ公民館の中で比較しても、条例上の料金で吉田地区と燕地区で約 2 倍の料金の開きがあるので公民館の中だけみても統一化を進めなければというところがある。先ほどの説明の中で、減免追加措置という社会教育関係団体に対策を講じ、50%減免から 80%減免にランクアップするような救済措置も考えているので、少しばかりは受益者負担額をいただくことにはなるが、ぜひ救済措置も活用しながら今まで以上にご利用いただきたいと考えている。

○委員

受益者負担は理解できる。

自己負担が増えることよりも、それに伴って減少する利用者数をどう補填していくか、どう増やしていくか、その施策をお伺いしたい。

○事務局

使用料の方はご理解いただいているということで、各文化協会の加盟団体の皆さんも高齢化して、なかなか厳しいというのも私共は聞いている。そのために文化協会の方には市からも補助金の交付をさせてもらっているが、各利用団体の状況も今一度確認しながらどうしていけば支援ができるか今後検討していきたい。

○委員

燕市文化協会の幹事をやっていて、毎年決算書を見ていると、高齢化で団体数は 2~3 団体が毎年減っている。

ステージに立ちたいけれど歌詞が覚えられない。プログラム代金 300 円をいただい

る以上、ある程度プロ意識をもって覚えて一生懸命練習して出て行くのが出演者の礼儀ではないかと言われ、なかなか厳しい現状、赤字である。残った団体の負担金がものすごく増えている状況、自分たちがステージに立つ時は、チケット代が何百枚も来たりして何万円も負担する。それは出演料という考え方もあるが、そうでないとやっていけない。そのチケット代が収入源である。企業をまわって広告をお願いするかとか、三条のある企業さんに、7月7日七夕コンサートの時もお願ひして15万円くらい出していただいた。

燕の文化会館や県の文化振興財団さんからも申請して助成金をいただくことになっているが、決算書をだして黒字になるともういただけない。

燕の団体が、多く三条のある企業さんから補助をいただいている。イキイキまちづくりで補助金をいただいている団体がそっくりその企業さんからいただいでいて、燕の団体はお世話になっている。そういう企業さんがいてくださると有難いと思う。

○委員

博物館の評価について、やはり年々入館者数は減ってしまっているという状況がある。人口も減っているし、若者も減っている状況が背景としてあるが、ただ博物館の評価はこれも難しく、単に人が集まればというところの評価はできない。博物館は調査研究の機関である。一つの木に例えると調査研究が根っこであり、しっかり収集保管することが幹で、教育とか展示で人を集めるのは枝葉の部分。枝葉の部分だけで、どうのこうのと言えものではない難しさ。つまり数量化出来ないところがけっこう大事な部分であったりする。市民の郷土意識とか郷土愛というものを広めていく上で、博物館はとても大事な生涯学習施設だと思っている。文化財などを発信、蓄積、研究を充実させていくことが大事になっていくのではと思う。

(4) 生涯スポーツの推進と健康づくりの推進

《事務局説明》

(質疑応答なし)

(5) 生涯学習社会を支える環境づくり

《事務局説明》

(質疑応答なし)

意見交換

1. 生きる力を育む青少年教育のありかた～地域・家庭の教育力について
2. 国上寺本堂絵巻の児童見学自粛について

その他

- (1) 第13回良寛書道展出品要項について
- (2) 第14回燕市美術展覧会出品要項について

閉会